

三十八回展受賞者の声

絵画の部



文部科学大臣賞

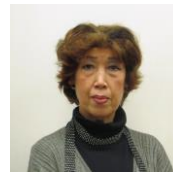
早田美智子(東京)
「雪のメタセコイア林」
(油彩)

メタセコイアの物語
この度は思いもかけない大きな賞を頂き有難
とうございしました。出展の度に惜しみなくアドバ
イスを下さり続けて下さった皆様のお陰と、心から感
謝いたします。

私の住む東京下町のマンションはその名も「グリ
ーンマンション」といい、敷地に一六本のメタセコイ
アがありました(諸事情で現在は九本です)。春
夏秋冬それはそれは見事でしたが、そのまま伸び
続ければ二十メートルにもなるという「落葉樹」
です。気がつけば巨木。ある年「思い切った剪定」
を余儀なくされました。さっぱりした、という方
もいましたが、まるで「電信柱」です。翌年緑はか
ろうじて蘇ったものの、その勇姿は望むべくもあ
りませんでした。

お隣、葛飾区の「水元公園」にメタセコイアの林
があると聞き出しました。我が家からは自転
車で一時間ほどです。広い公園に伸び伸びと育つ
木々に魅了され、少し本も読みました。地球的
な壮大なる「物語」です。
メタセコイアは化石でしか見ることが出来ない
絶滅種とされていた太古の樹木です。戦前中国
の奥地で発見され、時を経て戦後、アメリカから
日本の天皇に献上され、「あけぼの杉」と命名さ
れたといえます。ぐんぐんとまっすぐに伸びる姿
を、戦後日本の復興に重ねられてのことだったで
しょうか。その後、またたく間に日本中に広がり
公園や街路樹など、現在ではいたるところで目に
します。
春の新緑、秋の黄葉も素敵ですが私は冬枯れ
の林が好きです。毎年東京に雪が降ると、まずは

水元公園に行きたくなりします。「優しい夫」に車を
出してもらいひとしきり幻想的なメタセコイアの林
の中を歩いてきます。
今回、賞を頂いたのはこの「メタセコイア林」その
ものお陰だったように思います。
山には山の、木々には木々の物語があると思いま
す。自分も同時代を生きる一部であることに思い
を馳せながら、これからも自分らしく描き続けて
行きたいと思っています。



東京都知事賞

小林志津子(兵庫)
「アフリカの希望」
(油彩)

子供達の表情に魅了されて
全く思いがけない受賞に驚き暫くして嬉しい実感
が湧いてきました。子供に関わる仕事を長年続け、
その澁刺とした動き、いきいきと輝く目に魅了さ
れ、ライフワークとして子供の絵を描いてきまし
た。今まで自分の身辺にいる幼児や小学生ばかり
を描いていた私の目に一枚の写真が飛び込んできま
した。褐色の肌豊かな表情、生命力漲る口元、小
さな一つの壺から流れる水に子供達が微笑を浮か
べながら手を浸している。この情景を見た途端「よ
し、今度はこの絵を描こう！」と直ぐに決めまし
た。その子供達の瞳が私の方に信頼の表情を投げ
かけているように思えました。

描いているうちに一人一人と心が通うような気
になっていきました。アフリカ諸国にとっては貴重な
水、水の豊かな国で生活している私達にとって、水
の概念は相当違うと思います。タラタラと細く流
れる水に手を浸しながら、何処の国でも共通する
子供の明るく輝きのある表情、これを描きたいと思
いました。
ご覧になった方々に少しでも伝われば嬉しい限り
です。これからも子供の絵を描いていく私にとり、
東京都知事賞という大きな賞は少々重くもあり励
みにもなります。有難うございました。



東京都議会議長賞

小宮山 修(千葉)
「河流Ⅱ」
(油彩)

定年嘱託を終えやうと自由の身となり趣味
の絵に集中できると意気込みすぎ、五月、六
月、七月に体を酷使したツケが夏場に襲ってき
ました。
七月中旬から体調不良との戦いが本展搬入
間近になるまで続きました。
春先の楽しかった気分はどこへやら？と夏場
の厳しさを制作と体力の両面で味わい忘れるこ
とのできない本展を迎え、今年は何かが違っ
ていた感じでした。
結果思いがけない賞にあずかり中尾会長を始
め会員の皆様の助言やご指導もあり大変光栄
に思っております。これからは体調に留意しな
がら楽しく息の長い創作活動に精進いたす所
存です。有難うございました。



新日美大賞

鈴木忠義(神奈川)
「富士、日本人の心Ⅱ」
(油彩)

この度は新日美大賞という、会での最高賞を
頂き誠に有難うございました。私は、新日美
の本部会計を担当して今年でもう十年になり
ます。思えば新日美に入り会計になった時、美
術の学校を出ていないので全く絵の知識がな
かったのですが、中尾会長はそんな私に対し絵の
描き方のイロハを分かり易くご教授下さいまし
た。

そのあらまはざっと以下の通りです。最も
基本的な構図、色だし、色塗り、そしてその両
方の響き合い、私は富士山の絵を主に描いてい
るので、自分が描きたいものが最も効果的に描
けているか、雲が強すぎないか、陸地や海が主
張し過ぎないかという作品の仕上げ、完成度ま

で行き最終的にはその作品が醸し出す品性、品
格までを製作上の目安基準として描けというも
のでした。

具体的には元氣、勢い、思い切り、大胆、その
反対の繊細、独自の色彩、筆のタッチ、自分らし
さです。言葉では簡単ですがなかなか難しい内容
です。効果的に描けているのか煩悶の繰り返しの中、
少しだけでもこの教えに近づけるよう制作した結
果が今回の受賞につながったものと思います。

この十年間に、わたしには三つの記念すべき受
賞があります。二〇〇八年の石原慎太郎さんが
都知事だった都知事賞、民主党が政権交代した
時の文部科学大臣賞、そして今回の新日美大賞
です。前の外部二賞を受賞した時、もう受賞と
は無縁になったと思っておりましたので、今回の
受賞はこの上なく嬉しく感激し、光栄に感じてお
ります。

私の受賞により、我が神奈川支部の米寿を過
ぎた会員が、自分も諦めないでこれからもっと頑
張りたいたい、お祝いかたが新たな決意を述べて
くれました。受賞の大きさを感じた瞬間でした。
最後に一言。「私は子供のころより富士山が大
好きであった。富士さんは日本人が抱くこころ」
だからであるこの受賞を機会に、これからも更に
一段と頑張っていきたいと思っています。



新人賞

高橋輝剛(神奈川)
「僥倖の刻」
(油彩)

昨年の秋、美術展廻りをしている中で「新日美
展」を拝見、見応えのある作品を自分の画風
もなんとなく受け入れてくれそうな雰囲気、早速
受付で概略を聴きながら、心の中で、来年は出品
してみようかと思つたのが始まりでした。

薪能、茶道、陶芸等に魅せられ多少は勉強をし
た積りですが、各々伝統文化の中で育まれた色々
なしきたりや、見映えさ、動きや制約、流れ等々
難しい事ばかりで本当に理解したうえで芸術的
知識は学べてはいませんがほどほどに楽しむこと
でき、「まあ、これで良いか」と一人合点している現
状です。